

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370900435
法人名	医療法人社団 福本会
事業所名	グループホーム 和楽
訪問調査日	平成 21 年 3 月 2 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4370900435		
法人名	医療法人社団 福本会		
事業所名	グループホーム 和楽		
所在地 (電話番号)	熊本県天草市牛深町1641-4 (電話) 0969-72-3232		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年3月2日	評価確定日	平成21年3月31日

## 【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 15.5

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋 造り 1階建て	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,900 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.2 歳	最低	75 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人福本会福本病院 浦田歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心部に、東屋が作られた庭を中心に2ユニットのホームは和楽という名のとおり、和やかに楽しく過ごされている。今年度は管理者の交代による新体制となり、管理者同士がリーダーシップを発揮し、研修体制の強化や組織の中での“人作り”に取り組んでいる。入居者の本人本位の生活を基本に、学習療法や身体機能維持に体操等を取り入れ、穏やかな一日の中にメリハリを持った生活を支援しており、入居者の生き生きとした表情となって表出されている。運営推進会議での情報を活用し、地域住民との交流を図ったり、ホームで文化展を開催し家族や地域住民との交流を図っている。母体が病院であり家族や職員に安心感を与え、職員の日々の健康管理が行届き、明るいケアでの支援が入居者の生活ぶりに反映されている。新体制としてスタートし入居者・家族・職員との関係も構築しており、更なる発展に大いに期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

て お り	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の課題項目であった外部研修は遠方でも勤務調により参加している。隣町にグループホームが開所し同業者との交流を図っており、今後も職員との交流等に取り組む意向である。
重 点 項 目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を前向きに捉えており、まず意義を説明し全員で取り組み、職員の気づきや改善課題を明確にしている。2ユニット共に新体制として今後定例会議の中で改善点を話し合い、具体的な改善に向け全職員で取り組む意向である。
重 点 項 目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定着した運営推進会議は行政から包括支援センター・民生委員・家族代表1名・入居者代表・法人理事長や職員が参加し、近況報告や意見交換が行われている。議事録からも活発な意見交換会となっていることがうかがわれ、地域におけるボランティア活動状況や地域のイベント等の情報を得、委員から地域振興会主催の“やってみよう会”の状況を聞き、ホームも参加する等ホーム運営に具体的に反映させている。
重 点 項 目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月“和楽通信”と担当職員が1ヶ月の情報を記載し牛深の家族へは持ち届け、遠方の家族へは郵送している。また、家族の来訪時や職員が自宅を訪問した折に、健康状態や生活レベル等を報告し、心身の変化に随時電話連絡を行い、金銭管理は個別管理しサインによる確認化や職員体制は写真を掲示し周知を図っている。家族の訪問時や職員の自宅訪問時家族とのコミュニケーションに心がけ、意見や要望を聞くようにしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老会には婦人会の協力を得たり、牛深ハイヤ祭りに職員は踊りへ参加し入居者は浴道での応援で楽しまれている。毎年横田良一祭りには長期間練習して臨まれており一大イベントして心待ちにされている。ホームに行政無線を設置し、時報や地域の情報を得ながら地域との交流促進に組み込み、今年はホームで文化展(写真展)が福祉用具事業所とタイアップして開催され、家族や近隣住民も訪問されている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム和楽はその名のとおりに“和やかに楽しく”が理念であり、理事長の思いである地域の中で明るく楽しい暮らしを継続することを規範としている。	○	地域住民等との連携や協力により地域との交流を図ることを運営規程に掲げ、日々努力されている。地域との関係性を踏まえ具体的な理念としたり、職員の基盤となるようなサブ理念等の検討に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は理念の意義を明確に理解し、申し送り時や月例会議の中で事例を通して話し合い、理念の実践に真摯に取り組んでいる。玄関やリビングに大きく掲げ、職員へ意識付けや家族等への啓発に努めている。運営推進会議での理念の啓発が地域との交流に広がりを見せ、婦人会の協力支援となって表れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所との関係は一人で散歩される入居者の話し相手となったり、季節の花を持ってこられる等自然な交流へと深まりつつある。敬老会には婦人会の協力を得たり、牛深ハイヤ祭りに職員は踊りへ参加し入居者は沿道での応援で楽しまれている。毎年横田良一祭りには長期間練習して臨み一大イベントして心待ちにされている。ホームに行政無線を設置し、時報や地域の情報を得ながら地域との交流促進に取り組んでいる。今年はホームで文化展(写真展)が福祉用具事業所とタイアップして開催され、家族や近隣住民も訪問されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を前向きに捉えており、まず意義を説明し全員で取り組み、職員の気づきや改善課題を明確にしている。昨年度の外部評価での改善課題を運営推進会議で報告し、全職員が結果に目を通して、2ユニット共に新体制として今後定例会議の中で改善点を話し合い、具体的な改善に向け全職員で取り組む意向である。		
		○運営推進会議を活かした取り組み	定着した運営推進会議は行政から包括支援センター・民		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定着した運営推進会議は行政から包括支援センター、民生委員・家族代表1名・入居者代表・法人理事長や職員が参加し、近況報告や意見交換が行われている。議事録からも活発な意見交換会となっていることがうかがわれ、地域におけるボランティア活動状況や地域のイベント等の情報を得、委員から地域振興会主催の“やってみよう会”の状況を聞き、ホームも参加する等ホーム運営運営に具体的に反映させている。		
6	9	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センター職員が参加しており意見や情報提供を得たり、ホーム側も情報を発信している。今年度は九州厚生局の集団指導に参加し、行政無線により情報を得てサービスに反映させている。	○	ホームの啓発に取組まれていることも運営推進会議より窺われ、今後更に行政に情報を発信し、認知症ケアを推進やボランティア育成等に取り組まれることを期待したい。
7	14	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月“和楽通信”と担当職員が1ヶ月の情報を記載し牛深の家族へは持ち届け、遠方の家族へは郵送している。また、家族の来訪時や職員が自宅を訪問した折に、健康状態や生活レベル等を報告し、心身の変化に随時電話連絡している。金銭管理も個別管理サインによる確実性や職員体制は写真を掲示し周知を図っている。		
8	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や職員の自宅訪問時家族とのコミュニケーションに心がけ、意見や要望を聞くようにしている。運営推進会議での家族代表からの要望等に職員・家族との話し合いにより、高齢化による食事体制やじょくそう予防等サービス向上に繋げている。	○	運営推進会議には代表家族1名の参加となっており、管理者は“和楽通信”の中に、運営推進会議日程や議事内容を掲載し周知を図る意向であるが、全家族へ議事録を送付し情報の共有化に努めて頂きたい。ホーム行事(文化展・クリスマス会)等は休日に開催し家族の訪問を促しており、今後行事終了後に家族同士の交流会や話し合いの場を作り、家族会の立ち上げに発展することを期待したい。
9	18	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年1年は職員の離職が多く、管理者も入替わっているが、毎月の状況報告の中に担当職員の写真を入れ家族への周知を図っている。管理者は職員の定着に向け、職員とのコミュニケーションに心がけ、今では職員同士の意思疎通もよく、入居者の落ち着いた生活を支援している。		

5. 人材の育成と支援

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の業務検討委員会が立てた年間スケジュールに従った勉強会やホーム内では毎月会議の中で勉強会を開催している。外部研修にも参加しているが、牛深という立地条件から全員が参加する事は難しい状況である。	○	職員は資格取得に向け自己研鑽しており、ホームの勉強会にケア実践も取り入れレベルを向上させる意向である。外部研修参加者からの複講や職員のレベルに応じた育成に計画を立てて取り組み、立地条件を克服されることを望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、3ヶ月毎のブロック会議に参加し交流促進につなげ、事例検討会等質の向上に取り組んでいる。最近では隣町にグループホームが開設し交流を図っている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前より本人や家族の状況を把握し、見学により安心した入居となるよう努めている。また、同法人内のデイサービスやデイケアサービス利用からの申し込み時担当ケアマネジャー等から情報を把握したり相談しながら馴染んでもらうよう支援している。帰宅願望にドライブ等で気分転換を図ったり、自宅へ帰り安心してもらう等家族や知人等の協力を得ている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の得意分野を発揮できるよう調理や洗濯物干し・掃除等一緒に取り組み、寄り添いのケアや傾聴により柔和な表情を引き出し、生きがいや出番を作り自信へとつなげている。お互いが寄りそい支えあう関係が築かれている。		

## III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### 1. 一人ひとりの把握

		○思いや意向の把握			
--	--	-----------	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族からの情報や本人の長年の暮らし・人生を尊重し、入居者の行動の理解に努め、入居者同士の会話や職員の言葉での誘導により本人本位になるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の意向をもとに、職員全員が担当者会議に参加し、短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月の1つのプランにサービス内容6から7項目を作り、ケア統一に向けた個別支援計画を作成している。介護経過は担当者が記入し、それをもとに毎月話合っており、職員の気づきや観察の結果が表出されたプランとなっているが、新たな介護計画担当者のもと、会議を充実していく意向である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎の見直しや家族・本人の意向や状況の変化に随時見直しており、今後保険更新時には新たに作成したり、状況変化に随時プランを作成しなおす意向である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常生活用品の買物や定期受診同行、リハビリへの送迎、法人の大型車の借用による遠出等柔軟に対応している。また、デイセンターの機械浴が利用もできる点も利点である。ホームでの日々の健康管理が行届き、医療との連携により受診や入院回避につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する母体病院がかかりつけ医となっており定期受診には職員が同行し、専門医への受診は基本的には家族にお願いしているがホームの職員も同行し情報の共有化を図っている。		
		○重度化や終末期に向けた方針の共有			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
19	47	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体が病院であることで、家族は重度化や医療的支援が必要であれば病院でお願いしたいという希望であり、重度化や終末期に向けた方針は無い。状態変化に応じ、家族と個別に話し合いを重ねている現状であり、ホームで出来る最大限のケアに取り組んでいる。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを尊重した取り組みであることは耳元・目線での会話やトイレ介助等に表出され、方言で自然体での関わりに尊敬の念を持った取り組みであることが訪問時に確認できた。また、個人情報の保護も徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活リズムを大切に、日中の過ごし方や起床時間・入浴時間等個別に対応している。自宅まで一人で帰られる入居者は職員に声かけて出かけたり、外に出たいという希望に車椅子で連れて行ったりと希望に沿った対応である。また、一日の生活の中にメリハリも持たせるため、身体機能低下に体操等を取り入れている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人施設で献立・調理した食事の中に週2回は調理の日としてホームで入居者に好きなものを聞き、一緒になって取り組んでいる。職員は食事の進み具合を確認し声かけしたり、入居者との会話等家庭的な雰囲気での食事であり、調理への参加や後片付け等意気揚々と取組まれる入居者や座位でできることを手伝われる入居者等様々である。		
		○入浴を楽しむことができる支援	毎日入浴準備を行い、好きな時間に気持ちよく入ってもら		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ようにしており、毎日入浴される方や一番風呂が好きな方、自分で入浴日を決めて入られる方等様々である。夏場は毎日シャワー浴で清潔保持に努め、入浴剤やしょうぶ湯等や足浴等を取り入れ、入浴拒否にも強制せず、声かけに工夫している。浴室前には家族手彫りの“和楽湯”が掲げられている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の経験や知恵を発揮できるよう生活歴や趣味を把握し、ホーム内での役割や楽しみが見出せるような取組みや工夫がなされている。調理への参加やモップがけ、盆栽係りや庭の手入れ、野菜作りの畑準備や趣味のハイクを読まれる入居者等活躍の機会や役割を持って生活されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物へ出かけたり、公園に行ったりと天候や体調に合わせて支援し、季節に応じた外出も楽しみとなっている。ホームの中庭に出ての外気浴も戸外での生活と一つと捉えている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠での生活の弊害を認識し、日中は全て開放し自由に入出入りできるようにしている。職員は所在確認と一人ひとりの動きを観察し見守りや寄り添いのケアを心がけているが、不意をつかれ出て行かれたケースがある。	○	ホームは開放的でどこからでも出て行ける状態であり、職員の手薄時間帯等の見守り体制や鍵の施錠も踏まえ再度全職員で話し合いを持っていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの下、通報・非難・消化活動等の訓練を行っている。また、地元の消防団へ協力要請をし、夜勤者は火元確認を行いまずは火を出さないように努めている。	○	ホームは地域の中にあるという環境でもあり、近隣住民にも訓練日の周知を図り、まずは訓練の様子を見てもらい協力が得られるよう徐々に協力体制を整えられることを期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表にバイタルと共に食事摂取量を記録し、管理栄養士と連携を図りバランスの良い食事や減塩醤油等等考えた食事となっている。一人ひとりの嚥下状態や義歯等により、トロミン・ミキサー食・キザミ等細やかな支援や食事前には嚥下体操により楽しい食事となるよう支援している。水分は3食事・10時・3時や入浴後等適宜支援し、主治医の指示のもと記録を取っている入居者等個々の状態に応じ適切な水分確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東屋のある中庭を中心に2棟のホームは玄関周囲に季節の花を植え、家庭的で温かい家庭的な雰囲気である。キッチンの作りは1号館は対面式となったり、2号館にはデイサービスが併設されたりと造りの違いはあるが、広いリビングに入居者の作品を掲示し、1号館は廊下の壁面が活かされ写真館となっている。各ユニット共に清潔感に溢れ、居心地良くすぐく工夫が随所に施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には洗面台が備えられ、家族の要望に応じ使い慣れた物を持ち込まれている。家族写真や位牌の持ち込みもあり、入居者一人ひとりが自分の部屋として認識され、自由にレイアウトされた部屋や家族の思いが反映された部屋やすっきりとした部屋等様々である。	○	身体機能低下により整理整頓が行届いた居室であることは望ましいが、多くの写真等も撮られており職員の気づきや工夫で対応できないか検討が望まれる。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 福本会 グループホーム 和樂
(ユニット名)	壱番館
所在地 (県・市町村名)	熊本県天草市牛深町1641-4
記入者名 (管理者)	伊藤 京子
記入日	平成 20 年 2 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「和やかに楽しく」はホームの特徴が分りやすく覚えやすい理念になっており、日々のケアにも活かしています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、リビングに掲示しており、理念にそった和やかに楽しい生活を送れるよう場面に応じた支援をしています。	入居者の方にも寛ぐ時間に理念を紹介し、支援しています。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者は勿論、来訪者の方にも自然に目に入る位置に掲示しており家族の方々には運営推進会議を通して説明し、理解していただいています。	来訪者の方には理念を紹介、説明を行ない理解してもらえよう取り組んでいます。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方には挨拶を通して顔見知りになり声かけしていただき、一人で出られている時は教えてもらい、話相手になってもらっています。	<input type="radio"/> ご近所の方が季節の花を持って来てくださいます。もっと気軽にホームへ来ていただけるような取り組みをしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	長期間練習して参加する横田良一祭、春に行なわれるハイヤ祭は沿道での応援、花見、と地域の行事はなるべく参加しています。保育園児達の訪問や敬老会には婦人会の方より慰問を受け踊りを披露していただきました。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同法人内で家族介護教室を開催・勉強会に参加しています。	○	「認知症を守る会」の会員に3名の職員が入会。勉強会に参加してきたことや情報提供しあい質の向上をめざしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には評価の意義を説明し、全員で自己評価に取り込むようになっています。評価の結果は全員集会で報告し改善に向けての対策を話し合い実践に繋げるための努力をしています。日々の生活の中で常に評価の意義を心得、レベルアップを図っています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス提供や活動、事故報告、事故防止対策や問題点の協議など報告、話し合い議事録を作成しスタッフ一同会議での意見を反映させています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	委員の方より意見や助言をしていただき、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全員を対象とした勉強会は設けていない。資料の提供はしてもらい必要と考えられる方には可能です。	○	これからの必要性を考慮して今以上、研修に参加し制度の理解と活用に取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員集会にて研修(勉強会)に参加した職員より発表してもらい、全職員への理解、浸透を深めました。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の祭に分りやすい書面を通し説明し十分な説明の上納得していただいた上で同意を得ています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時や外泊された際ご家族の方に尋ねたり本人の意向に配慮して対応しています。意見や苦情のあらわれる時は話しをよく聞いてその都度話し合い反映させています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行の和楽通信を家族へ届けた際やTEL・来訪時に現在の状況報告(健康面・生活レベル)を詳しく伝え状態の変化時はその都度連絡しています。金銭管理は個別の出納帳に記入し家族のサインをいただいています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族宅訪問時、また来訪された際、声かけし意見や苦情等があれば話していただけるように心掛けています。運営推進会議でも家族代表の方より意見をいただくこともあり要望・苦情はミーティングで話し合い反映させています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の集会議時、意見や提案等を述べる時間を設けている。出し合った意見や提案をまとめ実践しています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>当ホームは2ユニットの常時8人ずつの体制でサービス提供を行っており、急な調整必要時でも柔軟に対応できています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新人スタッフは利用者の方にきちんと紹介、馴染みのある職員とのケアを行ない接するよにしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には可能なかぎり参加している。外部研修も近場は勿論、遠方でも参加希望者は研修できるよう配慮しています。	○ 職員全員が参加できていない。全員が参加することで職員の質の向上を図りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡協議会に所属し活動内容の情報交換・勉強会への参加し交流を通してレベルの向上を図っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフは介護に接し関わることでそれぞれにストレスを抱えることが多い、仕事以外の話しや全員ではできないが食事会をすることでストレスの軽減に繋がっています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格習得に向けた支援を行ない、習得後は評価していただいています。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時、日常生活の中で要望など気軽に話せる環境づくりをしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をよく聴き、思いを受け止め、適切に対応することで信頼関係を築いていくようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況など確認して必要としているサービスが提供できるように努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方に見学をしていただき、また、担当ケアマネ他関係者よりの状況把握に努め、安心して生活できるよう相談しながら馴染みのある雰囲気づくりをしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方に得意分野を発揮してもらっています。調理や後片付け、洗濯干し、たたみ、掃除など一緒に行ないながら喜怒哀楽を共にし、寄り添い支えあう関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に日々の暮らしの出来事や気づきを共有し家族と同じ気持ちを持ち生活の支援をおこなっています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会・運動会と行事ごとの参加に呼びかけより良い関係の維持に努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にホームに尋ねて来てくださる方もおられます。外出の際馴染みの方との再会時は話の出来る支援に努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1人ひとりの性格や好み、状態に応じた支援を行なっています。また入居者同士、コミュニケーションが図れるように、間に入ったりと支え合えるように努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	殆どの方が母体の施設への入院になられています。退去されたご家族の方とお会いすることがあれば心良く挨拶を交わしていただき、職員も会いに行き、退居後の関わりも大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が1人ひとりの思いを受けとめることで意向の把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方や関係者の方に情報の提供をいただき日々生活環境とプライバシーに配慮しながら把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々関わる中で、できることにも注目して、その人全体の把握に努め職員全員で共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮せるため家族の意向をもとに職員全員で話し合い介護計画を作成しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年ごとの見直しや入居者の状態や変化本人、家族の要望があれば随時見直しを行なっています。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、身体的状況、生活感など暮らしの様子の変化が記録によってわかり情報を共有しながらケアに活かしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じ、定期受診介助、リハビリ送迎を支援しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	婦人会の方の慰問もあり、運営推進会議の委員に民生委員の方もおられ協力してもらっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の方や本人の希望があれば積極的に支援していきます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの方がおられ情報の提供・交換の連携を図っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設との連携を図り、定期受診は職員が同行、他専門医受診は家族にお願いしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		退院可能であればいつでもホームでの生活ができるように、準備しています。退院後も経過の情報交換に努めています。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		急変・緊急時は母体の病院に移られます。家族の方も安心され了解してくださっています。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導行なっています。トレーニングパンツ使用の方がおられますが声かけをしながら見守り・介助を行なっています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の声かけをしています。入りたい時間に気持ちよく入っていただいています。拒否される方への支援はタイミングを見計らって再度聞いたりしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の活動が多い方は、日中の活動を促したり、暖かい飲み物の提供・暫くの会話など個々の表情や希望を取り入れ、安心して休んでもらえるような支援を行なっています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事の材料切りは、本人のできる範囲で声かけをし、手伝ってもらい感謝の気持ちを伝えます。1人ひとりの生活歴を把握しており行動を共にし楽しんで気晴らしの支援をしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理のできられる方は少なく殆どの方が預かりになっています。自分で管理される方は本人よりお金を預かり買い物や支払いを行なっています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気やその他の気分に応じ、買い物への支援、また市内を見渡せる山(公園)へ出かけたり外出の支援をしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設行事としてお花見や温泉へ家族の協力を得ながら出かける支援をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡されたい時はすぐに対応できるようにしています。月に1度、和樂通信を発行し1ヵ月の生活の様子を観て感じていただいています。入居者の方の中には手紙を書いてだされたりと家族とのつながりの支援をおこなっています。		職員も担当者の方の1ヵ月の生活の様子を手紙にしてお知らせしています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は設けてなく、来訪者があれば暖かくお迎えし、自室での会話やリビングで他の入居者の方と関わりながら会話して下さる家族の方もおられ、心地よく過ごしてもらえるような工夫をしています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていません。集会などで話し合い研修報告や職員の共有認識を図っています。	○	職員全員の参加がまだできていない。勤務の調整などして各自参加できるよう努めたい。また、言葉の拘束の軽減に徹底していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全ての出入り口には施錠していません。外へ出られる方の状態の動きを把握して見守っています。他の職員や近所の方が知らせてくださることもありました。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間でお互いの入居者の居場所の確認し合い夜間は、数時間ごとの巡視、物音や様子観察必要時はその都度訪室し対応しており安全の確認を行なっています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理をされたり、縫い物をされたりするので、状況の応じて、必ず職員が付き添い見守っています。包丁・洗剤・薬品等は利用者の方の目につかない場所に保管するように心掛けています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の申し送りやミーティングにて1人ひとりのリスクを検討し情報交換をしています。またヒヤリーハット等を職員間で共有し事故防止対策に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故防止時に備えての勉強会には新人を含め定期的に行なっています。	○	実践の応急処置や急変時の処置対応を職員全員が学ぶことで事故防止に繋げていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力の下、利用者と共に消防訓練を行ない、通報、非難、消化活動(消化器の使用)の訓練を定期的に行なっています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の方には起こり得るリスクの現状や対策等の説明をおこなっています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝必ずバイタルチェックを行ない、一人ひとりの顔の表情などの変化を見逃さないようにしています。少しの変化が観られる時は看護スタッフなどと情報を共有して必要時は受診させています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの服用については全職員が処方箋等を見て把握しています。身体変化のある場合はDrに相談、指示を頂いています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	対応策として水分補給・乳製品の摂取・繊維の多い食べ物と工夫したり、少しの運動の働きかけを行なっています。最終的にはDrに相談しその方にあった処方をしていただいています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけ・見守り・介助を行なっています。舌を磨く運動も心がけています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士との連携がとれておりバランスのとれた献立になっています。食事はその方に合わせてロメリン使用やミキサー、刻み食にしてみんなで楽しく食事ができるよう支援しています。食事量や水分摂取量は記録に残し確認、対応しています。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体となる施設の感染マニュアルに沿って対応しています。インフルエンザの予防接種に関しては毎年、家族(本人)の了解を得て受けています。また常時手洗い、うがいは施行しています。	職員全員がしっかりと認識し知識を高め、徹底した対応ができるように、感染委員会を中心に、日頃から情報を促しています。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾等は漂白剤等にて毎日消毒しています。冷蔵庫や食器棚等は定期的に点検し整理を行なっています。管理栄養士との連携を取り、新鮮で安全な食材を使用しています。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの門は日中開放しており、気軽に入れるようにしてあります。玄関前には季節の花を植え温かみのある環境作りに努めています。また手づくりの表札を掲げて暖かい雰陰気を出しています。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東屋のある中庭を挟み、2つのユニットが建ちお互いのリビングの様子も見ることが出来ます。明るく広いリビングでは音楽、レクリエーションなどを楽しまれています。また、季節の花を入居者の方と一緒に飾ったりして居心地よく過ごすことができるように配慮しています。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集まるリビングにはソファがあり、会話を楽しんだり、横になって休憩するスペースがあります。日あたりがよく中庭を一面に見渡すことができ季節の花も観葉しながらお茶をいただかれ、暖かい空間づくりを工夫しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の要望も伺い、本人が使い慣れた馴染みのものを持ち込んで頂けるように配慮しています。家族写真や亡くなられた方の御位牌を置かれている方もおられます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホーム内は24時間対応の換気扇が配備してあります。又天気の良い日は必ず窓の開放を行ない空気入れ替えに努めています。利用者の状況に合わせて頻回に行なっています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は独歩の入居者の方が行き来しやすいよう手すりが設置してあります。1人ひとりの身体機能を生かしてもらえるような環境づくりを工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の申し送り・ミーティングで問題点を検討し入居者の混乱、失敗が最小限に防げるよう努めています。又入居者の目線に合わせた、表札の高さに設置し自室の分らない方への目印となっています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は縁側や中庭へ出かけ外気浴・お茶・レクレーションと入居者の方が楽しめる場所となっています。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

町の中心の小高い丘の上に立地しており、閑静で交通の便も良く、憩いの場となるよう、季節の花や芝生が植えられ、東屋も作られ、散策には格好の場所になっています。医療面ばかりではなく、新鮮な季節の食材を安心な水の利用などの食生活の面でも健康保持に配慮されています。広々とした明るい館内で、和やかに楽しく過ごしていただき、誰からも束縛されない自由な生活ができ、転倒防止、食事の嚥下、清潔、健康状態などいつも気遣っています。また学習療法や身体機能訓練にも取り組んでいます。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 福本会 グループホーム 和樂
(ユニット名)	貳番館
所在地 (県・市町村名)	熊本県天草市牛深町1641-4
記入者名 (管理者)	伊藤 京子
記入日	平成 20 年 2 月 1 日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「和やかに楽しく」はホームの特徴が分りやすく覚えやすい理念になっており、日々のケアにも活かしています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、リビングに掲示しており、理念にそった和やかに楽しい生活を送れるよう場面に応じた支援をしています。		入居者の方にも寛ぐ時間に理念を紹介し、支援しています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居者は勿論、来訪者の方にも自然に目に入る位置に掲示しており家族の方々には運営推進会議を通して説明し、理解していただいています。		来訪者の方には理念を紹介、説明を行ない理解してもらえるよう取り組んでいます。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方には挨拶を通して顔見知りになり声かけしていただき、一人で出られている時は教えてもらい、話相手になってもらっています。	○	御近所の方が季節の花を持って来てくださいます。もっと気軽にホームへ来ていただけるような取り組みをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	長期間練習して参加する横田良一祭、春に行なわれるハイヤ祭は沿道での応援、花見、と地域の行事はなるべく参加しています。保育園児達の訪問や敬老会には婦人会の方より慰問を受け踊りを披露してくださいました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同法人内で家族介護教室を開催・勉強会に参加しています。	○	「認知症を守る会」に入会している職員が数名います。勉強会で学んで来たことや、情報提供してもらい質の向上をめざしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には評価の意義を説明し、全員で自己評価に取り込むようにしています。評価の結果は全員集会で報告し改善に向けての対策を話し合い実践に繋げるための努力をしています。日々の生活の中で常に評価の意義を心得、レベルアップを図っています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス提供や活動、事故報告、事故防止対策や問題点の協議など報告、話し合い議事録を作成しスタッフ一同会議での意見を反映させています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	委員の方より意見や助言をしていただき、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全員を対象とした勉強会は設けていない。資料の提供はしてもらい必要と考えられる方には可能です。	○	これからの必要性を考慮して研修に参加し制度の理解と活用に取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員集会にて研修(勉強会)に参加した職員より発表してもらい、全職員への理解、浸透を深めました。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の祭に分りやすい書面を通し説明し十分な説明の上納得していただいた上で同意を得ています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や外泊された際ご家族の方に尋ねたり本人の意向に配慮して対応しています。意見や苦情のあられる時は話しをよく聞いてその都度話し合い反映させています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の和楽通信を家族へ届けた際やTel・来訪時に現在の状況報告(健康面・生活レベル)を詳しく伝え状態の変化時はその都度連絡しています。金銭管理は個別の出納帳に記入し家族のサインをいただいています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族宅訪問時、また来訪された際、声かけし意見や苦情等があれば話していただけるように心掛けています。運営推進会議でも家族代表の方より意見をいただくこともあり要望・苦情はミーティングで話し合い反映させています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の集会議時、意見や提案等を述べる時間を設けている。出し合った意見や提案をまとめ実践しています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	当ホームは2ユニットの常時8人ずつの体制でサービス提供を行っており、急な調整必要時でも柔軟に対応できています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人スタッフは利用者の方にきちんと紹介、馴染みのある職員とのケアを行ない接するよにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会には可能なかぎり参加している。外部研修も近場は勿論、遠方でも参加希望者は研修できるよう配慮しています。	○ 職員全員が参加できていない。全員が参加することで職員の質の向上を図りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡協議会に所属し活動内容の情報交換・勉強会への参加し交流を通してレベルの向上を図っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフは介護に接し関わることでそれぞれにストレスを抱えることが多い、仕事以外の話しや全員ではできないが食事会をすることでストレスの軽減に繋がっています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格習得に向けた支援を行ない、習得後は評価していただいています。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時、日常生活の中で要望など気軽に話せる環境づくりをしています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をよく聴き、思いを受け止め、適切に対応することで信頼関係を築いていくようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況など確認して必要としているサービスが提供できるように努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方に見学をしていただき、また、担当ケアマネ他関係者よりの状況把握に努め、安心して生活できるよう相談しながら馴染みのある雰囲気づくりをしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方に得意分野を発揮してもらっています。調理や後片付け、洗濯干し、たたみ、掃除など一緒に行ないながら喜怒哀楽を共にし、寄り添い支えあう関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に日々の暮らしの出来事や気づきを共有し家族と同じ気持ちを持ち生活の支援をおこなっています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会・運動会と行事ごとの参加に呼びかけより良い関係の維持に努めています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人ご家族など来訪の折はくつろいで頂けるような雰囲気にと心がけています。希望があれば外出、買い物など馴染みの関係が途切れないよう支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者一人一人の特長を理解把握し良い環境で自然体で関わりあえるよう声掛け配慮しながら日々取り組んでいます。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域的に何らかの関係で顔見知りであったり、関わりもあるのでお会いする機会には近況報告などしています。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話の中から本人の思いや意向を把握し又ご家族よりアドバイスを受けながら努力しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、関係者の方々などから情報を提供して頂き本人にとって一番暮らしやすい環境を作り出しプライバシーの配慮にも努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の関わりの中でご利用者の心身状態や変化など把握共有し連携を密にするよう心がけています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人ご家族の意向をもとにアセスメントを含め現場の意見を聞き、職員全員で話し合いケアプランの作成に反映させています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	約三ヶ月毎の評価や適宜支援経過などで状態の変化などあれば、本人ご家族の要望も含め随時見直しを行うようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、身体的状況、生活感など暮らしの様子の変化が記録によってわかり情報を共有しながらケアに活かしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じ、定期受診介助、リハビリ送迎を支援しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	婦人会の方の慰問もあり、運営推進会議の委員に民生委員の方もおられ協力してもらっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の方や本人の希望があれば積極的に支援していきます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの方がおられ情報の提供・交換の連携を図っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設との連携を図り、定期受診は職員が同行、他専門医受診は家族にお願いしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体施設には5人のDrがおられるので助言をいただき、専門医への受診が必要な時は紹介状を書いていただき受診への支援をしています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師・(准も含む)が従事しており、相談しながら日常の健康管理の支援をしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療的処置が必要になった場合母体施設への入院となられる為、状態(経過)報告もあり、面会して状態の確認もできます。退院後の経過も常に情報交換ができています。		退院可能であればいつでもホームで生活できるように、準備しています。又退院後も経過の情報交換に努めています。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体の施設を殆どの家族の方が希望されています。状態の変化があるたびに家族の方に思いを尋ね支援しています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の意向を踏まえ、職員が対応できるところまでの支援はおこなっています。急変時は母体でもある施設に移られているのでターミナルケアまでの支援は行なっていません。		急変・緊急時は母体の病院に移られます。家族の方も安心され了解してくださっています。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	母体施設へ移られる方が殆どである。住み替えによるダメージを防ぐよう情報を提供しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しトイレ誘導をしています。オムツ使用者はサインを見逃さないようにし時間を見て声掛けをしていますリハビリ尿取り使用者は個々に応じて見守り介助を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日声掛けをしその日の希望に従って対応しています。拒否される場合の無理強いはしていませんが週に2～3回の割合で経過しています。その他適宜失禁時は部分洗浄したりと清潔の保持に心がけています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく夜間の安眠の為に日中の活動を促しています。車いすで過ごして居られる方も歩行訓練をしたりリズム体操したり天気の良い日は庭の散策をしたりして昼夜の区別を理解して頂く努力をしています。眠れない時には温かい飲み物などを出してスタッフと会話したりして安心感を与えています		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や食事作りは一人一人出来る範囲で声かけし参加して頂き感謝の言葉を伝えます。レクや行事への参加も無理強いせず気分良く楽しく参加して頂くよう声かけを常に心がけています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に管理している方が多いですが自己管理のできる方は希望時買い物など同行しています。金銭をスタッフに渡して依頼される方もあります。又場面に応じ管理の出来ない方にも少額のお金を持たせ自分の財布から支払う楽しみも味合わせたりと支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気その他の気分に応じ買い物への支援又ドライブ温かい時には近くの公園や山などへお花見に出かけたり敬老会、地域のイベント音楽祭など出演の機会もありスタッフ全員で支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設行事としてお花見を兼ね温泉息も実施しています。家族の協力も得ながら外食したりと気分転換を図っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される時は直ぐに連絡が取れるよう心がけています。又郵便物や荷物などが届くと家族へのお礼の電話など自室で気軽にお話できるようコードレスの使用など配慮しています。同様手紙を書かれる方の支援もしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限もなく訪問者があると、常に暖かくお迎えし、自室で談話されたりリビングにて他の方とも会話ができるような雰囲気を作っています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていません。集会などで話し合い研修報告や職員の共有認識を図っています。	○	言葉の拘束に気をつけてように努めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していません。外出癖のある方に対してはその日の気分や状態を把握し対応しています。どうしても出られる時は後から本人にきずかれない様に尾行していきます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員間でお互いご利用者の居場所を確認取り合いながら状況の把握に努めています。夜間は数時間毎の居室巡回と随時常に小さな物音も聞きもらさず安全確認の為に対応しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理をされたり時には縫い物をされたりするので状況に応じて必ず職員が付き添い見守っています。包丁、洗剤、薬品等も危険なものはご利用者の目に届かない場所に保管するよう心がけています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の申し送りミーティングにて一人一人のリスクを検討し事故が起きた場合の原因、対策、家族への説明、報告等ヒヤリハット、事故報告書に記録し職員間で共有して事故防止対策へと心がけています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティングでの最大課題の一つです。いろいろ協議を行ったりしています。緊急マニュアルに沿って研修していますが、現実にはマニュアルどおりに行かないことが多く常に職員間の認識の向上を図って機会を有る度に話あっています。	○	特に夜間時の急変、事故発生時は医療機関との連携がスムーズに図られるよう話し合いが必要と思われます。又職員の応援が必要であれば近距離にある方の連絡をして応援依頼をするなど現在検討進行中です。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力の下、利用者と共に消防訓練を行い、通報、非難、消化活動(消化器の使用)の訓練を定期的に行なっています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の方には起こり得るリスクの現状や対策等の説明をおこなっています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日必ず声かけして、バイタルチェックを行なっています。1人ひとりの体調管理に努め異常・変化が診られた時は看護職員との連携のもと病院受診をしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの服用については、全職員が対応できるように、処方箋等を見て把握・理解しています。体調変化ある時はDr・看護職員の指示に従っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事のメニューは管理栄養士にて管理されているのが、多めの水分補給、乳製品の摂取・腹部マッサージを心掛け支援しています。運動等も1日の中でできる時間に少しでも行なってもらえるよう支援しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけ・介助は行っています。希望や痛みの訴えのあられる方は歯科往診に来て診ていただける支援を行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士との連携がとれておりバランスのとれた献立になっています。水分摂取もお茶以外に、食事の際に摂ってもらえるよう汁物を付けるように心掛けています。また、ムセのある方には、トロメ剤を使用して飲みやすいように提供しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体となる病院で定期的に感染委員会が行なわれていて、マニュアルに従って対応しています。常に手洗い・うがいは徹底し外出帰宅後は職員同様日課としています。		職員全員がしっかりと認識し知識を高める、徹底した対応ができるように、感染委員会を中心に、日頃から情報を促していきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具布巾等は漂白剤にて毎日消毒しています。冷蔵庫食器棚等は定期的に点検整理を行っています管理栄養士との連携を取り新鮮で安全な食材を使用しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は常に開放し、玄関前には季節の花を植え気軽に入りやすい環境を整えています。門を開けると数台置ける駐車場もあり時間を気にせず、来訪していただけます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には常に季節の花が飾ってあり、和やかな雰囲気でも生活していただいています。居間からは中庭も見え、小鳥や樹木によって季節感を味わってもらえます。天気の良い日はウッドデッキで日光浴もでき、お茶を飲まれたりされています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが集まるリビングにはソファを設置し利用者様同士が会話を楽しんだり、肩を並べ寄り添いながら居眠りされる場面もあります。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の要望を伺い本人が使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂けるように配慮しています。家族写真亡くなられた方の遺影を置かれ、毎日供養されている方も居られます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	館内24時間対応換気扇が配備してあります。又掃除時天気の良い日は開放し換気に心がけています。又エアコン使用の際は利用者様の身体状況に合わせ共有スペース自室の温度を調整しています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は独歩の利用者様が行き来しやすい様手摺りを設置してあります、現在レベル低下にて入浴困難な方もおられ機械浴を設置しました。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の申し送りミーティングにて問題点を検討し利用者様の混乱失敗が最小限に防げるよう努めています又表札等利用者様の目線に合わせた高さに設置し自室の分からない方へは目印となるものをつけています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日はウッドデッキや中庭にて、お茶やレクリエーション、外気浴日向ぼっこを楽しめます。又畑には利用者様が楽しみながら作物を作られたり周囲に花を植えたりと活用して頂いて居ります。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

町の中心の小高い丘の上に立地しており、閑静で交通の便も良く、憩いの場となるよう、季節の花や芝生が植えられ、東屋も作られ、散策には格好の場所になっています。医療面ばかりではなく、新鮮な季節の食材を安心な水の利用などの食生活の面でも健康保持に配慮されています。広々とした明るい館内で、和やかに楽しく過ごしていただき、誰からも束縛されない自由な生活ができ、転倒防止、食事の嚥下、清潔、健康状態などいつも気遣っています。また学習療法や身体機能訓練にも取り組んでいます。